

# 桑の小枝を原料とする認知症、

# 糖尿病予防健康食品の研究開発、製造販売

三徳美健株式会社

代表取締役 三浦 艶子さん



三浦 艶子さん

平成25年度 採択事業

## 丹後ちりめん栄えた丹後地方

京丹後市網野町は、日本標準子午線東経 135 度の最北の地をしるす「最北子午線塔」のある町です。丹後半島の美しい海岸線や温泉など、豊かな自然と数々の文化遺産に恵まれ、歴史上の静御前の出生地としても有名です。また、高い湿度をもたらす気候が絹織物「ちりめん」の生産に適していたため、古くから伝統産業として受け継がれ、かつては生産量が日本一にまで発展しました。

昔は網野町にもたくさんの機屋があり、道を歩けば「ガシャン、ガシャン」と朝早くから夜遅くまで機音がしていましたが、今は町から機音が消え、静かな町となりました。生活の西洋化による和装離れに加え不景気も重なり、安価な中国産絹糸やちりめんが日本の市場を席巻するようになりました。

その結果、日本一の生産を誇っていた丹後ちりめん業は低迷し、後継者不足が深刻な問題となっています。同時に、養蚕と桑の栽培も斜陽産業となり、桑畑は放置され、農家の高齢化に伴い耕作放棄地が増加しました。



有機栽培で育てられる桑の木

## 地場産業の復興を目指し、再び桑とカイコの研究を

三徳美健株式会社の代表を務める三浦艶子さんの実家は、明治 40 年に網野町で絹織物業を創業し、昭和 24 年に有限会社三徳織物機械場を設立しました。また、昭和 54 年には有限会社三徳と改称し、併せてプライダル事業も手がけることになりました。その後、平成 17 年にはシルク健康関連事業部を発足させ、桑の栽培とその葉を原料とする健康関連商品の開発を行います。平成 21 年に現在の三徳美健株式会社を設立し、桑葉を健康食品素材として販売する事業を中心に展開しています。

三浦さんは、伝統ある絹織物製造業をもとに地場産業の復興を目指し、養蚕回帰をきっかけに、シルクの原点である桑とカイコを見直す活動を進めています。まず、こ

## 農林水産物の活用

だわりの素材として黄金色の繭玉（ドーレルシルク）の研究を京都工芸繊維大学と共同で行いました。また、カイコの全齢人工飼育技術の確立にも至り、無菌で育てたカイコを健康食品や化粧品などの用途に利用することを可能にしました。

さらに、シルクの素である桑に目を向け、良質の桑を得るために地元国営農地約 8,000m<sup>2</sup>に桑の苗木から植樹し、畑を守り桑を守るための畑作りとして、虫の駆除、草抜き、桑葉収穫を全て手作業で行うことで、無農薬、有機肥料にこだわった桑を育てています。

## 桑は健康維持のための健全食

桑園の名前は、美人であったと伝えられる静御前から「しずの丘桑園」と命名し、そこから採れる桑葉を「しずの桑」と名付けて、お茶やサプリメントにした健康食品を販売しています。

「桑はカイコの餌という概念が定着していますが、昔は不老長寿の食べ物として考えられていました」と語る三浦さんは、桑に含まれる「1-デオキシノジリマイシン」という成分が血糖値の上昇を抑制するという研究成果を受けて、糖尿病予防にも効果があるのではないかと期待を寄せています。

また、桑葉を採取した後に発生する枝などは、これまで産業廃棄物として処分していたのですが、この桑枝には桑葉に存在しないレスベラトールという成分が発見されたことにより、にわかに脚光を浴びることとなりました。レスベラトールは、赤ワインにも含まれる貴重な健康食品素材で、認知症予防に有効であるという報告がなされています。

そこで、三浦さんは廃棄物として処分されていた桑枝を有効利用するために、サプリメント素材として販売する新規ビジネスを立ち上げます。「認知症予防の有効性



桑枝を原料として開発された健康食品

が完全に実証されるまでには、まだまだ専門機関での研究が必要だと思いますが、将来的な可能性を秘めた話であり、これによって認知症予防に効果的な医薬品が開発されることを願っています」。



吸収力を高めた微粉末で作られるタブレット

## 桑の持つ未知なる可能性を追求して

「私どもの桑園は、有機栽培にこだわることで 2007 年に有機 JAS に認定されました。おいしくて、安全で安心してご賞味いただける桑を日々作り続けていきたいと思っています」。農業や化学肥料の化学物質に頼らず、自然の力を最大限に活用することが大切だと考える三浦さん。

今後、丹後地区の桑栽培農家が廃棄している桑枝を、健康食品や薬品の素材として販売するビジネスが軌道に乗れば、網野町、丹後地方を桑の一大生産地として地域を活性化できるのではないかと。また、この地に養蚕の技術を残しておけば、良質なブランドシルクとして高くても市場に受け入れられるのではないかと希望も語っています。

「桑はまだ未知なる可能性を秘めています。私たちは、国産の安心・安全な桑の有効利用を追求していくことで、新しい産業の形成と京都の文化でもある『丹後ちりめん』の継承・発展に貢献していきたいと思っています」。

## 事業概要

三徳美健 株式会社

http://www.santokubiken.com

代表：代表取締役 三浦 艶子

業種：プライダル・エステ事業、桑葉栽培・販売

設立：平成 21 年 5 月

住所：〒 629-3104 京丹後市網野町浅茂川 1608

TEL：0772-72-0203 FAX：0772-72-0255